

10 赤ちゃんの指がドアに触れていないのを確認してから開閉を行っていますか。

赤ちゃんの小さな指はちょっとしたすき間にも簡単に入ってしまう。赤ちゃんをおんぶしているとき、赤ちゃんがドアをいたずらしているのに気づかずドアを閉めてしまったり、開け放しておいたドアが強風で急に閉まって、赤ちゃんの手が挟まれてしまう事故があります。



ドアの開閉をするときは、赤ちゃんの手の位置を確認する。
ドアを開け放すときは、
風などで急に閉まらないように
ドアクローザー、ドアストッパーなどで固定する。

11 ベビーベッドのさくマットレスの間にすき間がありませんか。

ベビーベッドのさくマットレスや敷ふとんの間に、赤ちゃんの頭が入るようなすき間があると、顔が挟まって動けなくなり、窒息する危険があります。すき間ができてしまう場合には使用をやめるか、バスタオルなどを挟み、すき間をなくして使用します。



ベビーベッドはベッドのさくマットレスや敷ふとんの間にすき間がないか調べて使用する。

乳幼児突然死症候群(SIDS)について

SIDSは、何の予兆や既往歴もないまま乳幼児が死に至る原因のわからない病気で、窒息などの事故とは異なります。SIDSの予防方法は確立していませんが、以下の3つのポイントを守ることにより、SIDSの発症率が低くなるというデータがあります。

1. 1歳になるまでは、寝かせる時は
あおむけに寝かせましょう。

2. できるだけ母乳で育てましょう。

3. たばこをやめましょう。

子供の健康相談室(小児救急相談) #8000

子供の健康・救急に関する相談に看護師や保健師等が応じています。
また、必要に応じて小児科医師が対応します。

☎ #8000 (携帯電話、プッシュ回線の固定電話。
ただし、ひかり電話、IP電話からは、つながりません。)
03(5285)8898

相談日時 ○月曜日から金曜日(祝日・年末年始を除く)
午後6時から翌朝8時まで
○土・日・休日・年末年始
午前8時から翌朝8時まで

東京消防庁救急相談センター #7119

急な病気やけがをした場合に、「救急車を呼んだほうがいいのか?」「今すぐ病院に行ったほうがいいのか?」等迷った際の相談窓口です。相談医療チーム(医師、看護師、救急隊経験者等の職員)が対応しています。

☎ #7119 (携帯電話、PHS、プッシュ回線)
(ダイヤル回線からは): 03-3212-2323
又は: 042-521-2323

相談日時 24時間年中無休

TOKYO子育て情報サービス

妊娠・子育て及び事故防止等に関する情報をインターネットにより提供しています。



TOKYO 子育て情報サービス

検索

または 東京都福祉局ホームページトップ>子供家庭
>子育て支援>TOKYO子育て情報サービス

赤ちゃんを亡くされたご家族のための電話相談

SIDS(乳幼児突然死症候群)をはじめ、その他の病気・流産・死産・事故などで赤ちゃんを亡くされたご家族の精神的な支援のために、専門職(保健師又は助産師)やビフレンダー(同じ体験をしたご家族)による電話相談を行っています。

☎ 03(5320)4388

相談日時 金曜日(休日・年末年始を除く)
午前10時から午後4時まで

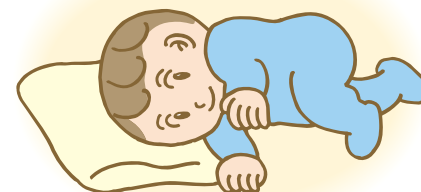
著作・編集: 元国立保健医療科学院生涯保健部 田中哲郎
東京都福祉局子供・子育て支援部家庭支援課

発行: 東京都福祉局
出版承認番号: 6福祉企企第390号

子供に 安全を プレゼント

3~4か月児健診用

(3~6か月児対応)



事故防止のポイント

！子供のまわりには危険がいっぱい

周囲のちょっとした気配りで事故の大部分は防げます。

1 ベビー用品は月齢や使用目的に合ったものを選び、取扱説明書をよく読んでいますか。

赤ちゃんが使うものはすべて安全の規格や基準に合っているとは限りません。PSマーク・SGマーク・STマークなど安全マークがついているものでも、使い方や使用月齢が違っていたり、赤ちゃんの体に合っていないと事故は起こります。取扱説明書をよく読み、構造や品質に問題はないかを確認して使用しましょう。



取扱説明書や使用上の注意をよく読み、きちんと守って使用する。ベビー用品はデザインだけではなく、安全性にも目を配る。

2 ベビーベッドのさくはいつも上げていますか。

赤ちゃんの発達は早いので、まだ動けないから大丈夫と思って、ベッドのさくを下けたままミルクを作りに行ったり、おむつを取りに行ったりするのは危険です。赤ちゃんからちょっと目を離したすきに転落事故が起こっています。



ベビーベッドに寝かせるときは、必ずさくを上げておく。

3 テーブル、ソファなどの上に赤ちゃんを寝かせたまま目を離すことがありませんか。

3か月ぐらいになると、赤ちゃんは手足をバタつかせて激しく動き、頭のほうへずり上がったりします。5か月を過ぎると発達が早い赤ちゃんは寝返りをするようになるので、テーブルやソファなど高いところに赤ちゃんを寝かせるときは、目を離すことができません。



テーブルやソファなどの高いところに寝かせない。赤ちゃんは動くものだということを忘れずに。

4 赤ちゃんを抱きながら、熱い食べ物や飲み物を食べたり飲んだり、料理することがありますか。

3か月から5か月にかけて赤ちゃんはこぶしをふるったり、物をつかんだりができるようになります。大人の持っている熱い食べ物、飲み物にも手を伸ばそうとするので、片手で赤ちゃんを抱きながら熱いものを扱うことは危険です。また、抱いている赤ちゃんが動いたり、動かなくても誤ってカップが手から滑り落ちたりしないとは限りません。赤ちゃんの皮膚は成人に比べて薄く、洋服の上からでも容易に深度の深いやけどになってしまう。



赤ちゃんを抱きながら、熱い物を食べたり飲んだり運んだりしない。

5 赤ちゃんを抱いたり、おぶったりするとき、まわりにぶつくと危ない所がないか確認をしていますか。

赤ちゃんを車に乗せる時、ドアに頭をぶつけてしまったり、抱っこしながら立ちあがろうとして机にぶつけてしまう事故が起きています。赤ちゃんばかり気にかけ、まわりを見ないで行動するのは危険です。



赤ちゃんを抱いたりおぶったりするときは、まわりにぶつくと危ないところがないか、安全を確認してから行動する。

6 タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いていますか。

腹ばいになり、好きなおもちゃをつかんで遊ぶようになった赤ちゃんは手を口に持っていく、何でも口の中に入れようとします。タバコは2cm以上飲み込むと、時には命にかかわるといわれています。口に入れると危険なタバコが赤ちゃんの手に届く場所にないか、いつも気を付けておく必要があります。



タバコや灰皿は手の届かないところに置く。ジュースやビールなどの缶を灰皿代わりにしない。

7 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。

赤ちゃんを抱っこして車に乗るのは危険です。車が衝突すると腕から飛び出し、顔や頭をシートやダッシュボードにぶつけて、事故の衝撃をまともに受けてしまいます。また、エアバッグ付きの車の助手席にチャイルドシートを取り付けるのは、衝突によってエアバッグが作動すると押しつぶされるので危険です。



車に乗せるときは年齢に合ったチャイルドシートを後部座席に正しく取り付けて使用する。

8 赤ちゃんを抱いているとき、自分の足元に注意していますか。

今まで簡単に通れていた所でも赤ちゃんを抱いているときは足元が見にくいので、めくれたカーペットや、ちょっとした段差にもつまずいてしまいがちです。赤ちゃんを抱いたまま転倒すると、体で押しつぶしてしまったり、テーブルや家具にぶつけてしまうので注意が必要です。



赤ちゃんを抱いているときは、自分の足元に十分注意を払う。

9 赤ちゃんの腕を、強く引っ張ることがありませんか。

赤ちゃんの体は完全にできあがっていないので、ちょっと腕をひっぱった程度でも脱ぎゅうをしてしまうことがあります。脱ぎゅうは癖になりやすいので、赤ちゃんの腕を引くときは、急に引っ張ったり、強くなりすぎたりしないように普段から注意が必要です。



赤ちゃんの腕を引くときは強くなりすぎないようにする。